敦賀市立看護大学

救急・災害看護研究センター活動報告書

2020-2022 年度

敦賀市立看護大学

【 目 次 】

（ ）内は執筆者

Ⅰ　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
（山﨑 加代子）

Ⅱ　救急･災害看護研究センターの役割　・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　事業内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅳ　研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
（池原 弘展）

Ⅴ　教育及び地域貢献　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

１）災害に関する看護実践活動や有事に備える活動　・・・・5
（池原 弘展）
２）敦賀消防団機能別班（学生団員）活動　・・・・・・・・8
（河合 正成）
３）卒業生および医療従事者対象の AHA-BLS Course 開催　11
（河合 正成）
４）原子力施設視察研修など　・・・・・・・・・・・・・・・12
（池原 弘展）
５）研修会や広報活動など　・・・・・・・・・・・・・・・・13
（池原 弘展）
６）シミュレーション･ラボの活用促進と管理　・・・・・・・・14
（野沢 和也）
７）TNU（Tsuruga Nursing University）　・・・・・・・・15
救急・災害看護研究センター交流会　（横山 浩誉）

Ⅵ　総括　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
（池原 弘展/河合 正成）

Ⅶ　資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
(山﨑 加代子/池原 弘展)

Ⅰ．はじめに

救急･災害看護研究センターは、本学の理念のもと、「救急･災害に迅速・的確に対応できる能力の高い専門的な看護師を育成し、災害や事故の発生時に人命を守り、健康への被害を最小限にするための支援を行うと同時に、災害時の新たな看護ケアの開発を目指した研究を行い、地域社会に貢献していく」ことを目指して活動してまいりました。

災害看護学では迅速かつ的確に対応できる能力を有した看護師を育成し、災害や事故発生時に人命や生活を守り、健康への被害を最小限にするための支援を行うことを目指しております。救急看護学においても生命の危機を回避し、人命を守ると同時に社会生活への復帰まで高度な知識と技術を用いてケアにあたれる人材を育成します。救急と災害看護学を発展的に学ぶ教育の機会や、より的確で質の高い看護ケアを提供するためには、その基盤となる災害や救急看護の研究に取り組み、その成果を公開していくと共に、成果を用いて救急・災害時に地域住民の安全安心のために貢献していきたいと考えております。

本センターの事業のひとつである「敦賀消防団機能別班（学生団員）活動」では、3年次に応用３分野の救急・災害看護学分野で AHA BLS Hearthcare Provider Course（American Heart Association　Basic Life Support）の公式コースの資格を取得した学生の中から 15 名が地元消防組合の学生団員（機能別班）となり、地域や小中学校等で心肺蘇生法講習会の指導員として参加しています。このように「敦賀消防団機能別班（学生団員）活動」は、学生の教育の延長線上に消防団の機能別班での活動があるといった形態をとっています。また、「救急・災害看護のニーズ調査」は、大学と自治体による協働プロジェクト体制で取り組んでいます。学生が地域へ調査に伺い、その調査結果をもとに災害時に配慮が必要な方や災害に備えるための課題について、自治体や住民の方々と学生とでディスカッションの機会を持ちます。このように救急・災害関連の教育と同時に災害の備えを地域住民に考えていただく機会を提供する、学生による社会貢献を有機的に合わせた事業になっております。

これら活動は継続した活動であり、地域の方々から温かい言葉をいただくようになりました。こうした学生と地域住民との交流は、有事の際に地域住民の命と安全を守ることに繋がっていくと考えております。

近年、毎年のように国内外で自然災害が頻発し甚大な被害が発生しています。さらに、2020 年には新型コロナウィルス感染症が流行しました。新型コロナウィルス感染症の感染拡大防止対策を受けて、センターの活動にも大きな影響がありました。その中でも逆境こそ教育の機会と考え、感染症に関する正しい知識と感染対策の普及に繋がる内容を加えながら活動に取り組んできました。

本報告書は、本センターの 2020 年～2022 年度における３年間の活動をまとめたものです。今後のセンターの発展のため、ご意見をうかがえれば幸甚に存じます。今後ともご支援とご協力をお願い申し上げます。

救急・災害看護研究センター長
山崎 加代子

Ⅱ．救急･災害看護研究センターの役割

【設置趣旨】

敦賀市立看護大学の特徴は応用看護学３分野「救急・災害看護学」「在宅看護学」「公衆衛生看護学」を掲げていることである。「救急・災害看護学」をさらに深め、その在り方を探求する機関として、救急・災害看護研究センターが設置された。

【役割】

平常時では、救急看護および災害看護に関係する教育・研究を行いながら、それらから学び得た知識や技術を活かし地域に貢献することである。

災害発生時には、救急・災害看護の知識・技術の学びを活かし、緊急支援の補助を担うことである。また、本学が災害時の『緊急避難場所』として指定されていることからも、関係機関や団体（病院および市等）との連携のもとに活動をしていくものである。

Ⅲ．事業内容

１．　教育

１）学部生・院生の救急・災害看護教育の拠点とする

２）卒後教育として AHA BLS Healthcare Provider Course を開催する

３）学部生・院生へ学習環境を提供するためにシミュレーション・ラボを整備する

２．　研究

１）地域住民の災害（原子力災害を含む）に関する看護研究を行う

２）災害時に支援優先度が高い人（要配慮者）に関するケアニーズ調査を行う

３）地域医療施設・介護施設の救急・災害看護に関する研究協力を行う

３．　地域貢献

１）減災サイクル『予防』の段階では、大学教職員・学部生・院生が実行可能な、地域住民のための救急・災害の知識および技術の普及活動を行う

２）減災サイクル『応急』『復旧』の段階では、大学教職員・学部生・院生が実行可能な、地域住民のための救急・災害時における活動支援を行う

３）医療従事者向けに AHA BLS Healthcare Provider Course を開催する

４）医療従事者へシミュレーション・ラボを開放し、学習環境を提供する

【救急･災害看護研究センターホームページ QR コード】

Ⅳ.研究

救急･災害看護研究センター（以下センター）は、救急看護および災害看護に関係する研究を行い、結果を公開していきます。そして、それらから学び得た知識や技術を活かし地域に貢献できるよう取り組んでおります。また、センター運営会議のメンバーは、嶺南地域の看護職者の研究支援を行っています。このような活動から研究結果を現場に活かしていくことで地域との還元サイクルを構築しています。

研究成果として、2019 年度に行った美浜町との協働プロジェクト「災害から命を守る健康づくり」から、2020 年度に「福井県美浜町郷市区における「災害から命を守る健康づくり」に関する調査報告」と「地域連携事業におけるフィールドワークの効果–美浜町住民と看護大学生による減災と健康づくりの取り組み–」の２編の論文としてまとめました敦賀市立看護大学ジャーナルに公開しております。

一方、近隣医療施設へのセンターとしての研究支援はＣＯＶＩＤ－19 の流行により依頼が控えられた現状があり実績は残せませんでした。しかし、センターで取り扱う研究に関わらず、各メンバーは医療施設などでの研究支援は行っており、地域との研究サイクルは保っております。

今後のセンター自体の研究としまして、敦賀市大学研究等支援補助金の獲得により「災害時避難行動要支援者の健康を守る水害用アクションプランの開発」を次の３年計画で進めていく予定です。また、敦賀市の特徴でもある原子力についても災害看護教育プログラム開発の観点から研究的取り組みに臨みたいと考えております。

年度	日時/場所	内容	備考
2020 年度	４月	福井県美浜町郷市区における「災害から命を守る健康づくり」に関する調査報告。	敦賀市立看護大学ジャーナル 第４号
	８月	地域連携事業におけるフィールドワークの効果–美浜町住民と看護大学生による減災と健康づくりの取り組み–	敦賀市立看護大学ジャーナル 第５号
2022 年度		災害時避難行動要支援者の健康を守る水害用アクションプランの開発。	研究計画書作成

【敦賀市立看護大学ジャーナル QR コード】

Ⅴ.教育及び地域貢献

センターは、救急看護および災害看護に関係する教育を行いながら、地域に貢献していけるように取り組んでいます。

敦賀消防団機能別班（学生団員）を中心とした心肺蘇生法や応急手当の啓発活動、学部教育として「県内大学の地域人材育成 支援事業」を受け地域住民の防災意識・知識の普及に努めています。また、大学ホームページでは COVID-19 を含め感染症対策についての動画などを公開しています。

１）災害に関する看護実践活動や有事に備える活動

学部教育を兼ね災害看護学を履修している学生が、地域住民と敦賀市市民生活部危機管理対策課、敦賀市福祉保健部地域福祉課、敦賀市福祉保健部長寿健康課、敦賀市福祉保健部健康推進課の協力を得て災害時の避難に看護の視点を取り入れて、学生自らができる支援について考えています。2020 年度は昭和町、2021 年度は呉竹町、2022 年度は再び昭和町の協力のもとフィールドワークを行い、さらに 2022 年度は聞き取りと郵送を合わせて全戸調査も行いました。それらを基に災害が起きた際の避難で生かせそうな場所や危険となりそうな場所などを環境 MAP として作成したり、学生自身で行える支援を考えたりしました。それらを踏まえて前述の市の方々と意見交換会を行いました。そして、住民の方へは報告会を開催し、意見交換を行っております。学生たちはこの活動を通して、敦賀市について理解を深めたり、自分自身も住民の一人であると自覚したり、学生でも出来ることがあると自信を深めたりして学んでいます。尚、本事業は福井県「県内大学の地域人材育成 支援事業」の支援を受けています。

また、県や市が主催する防災訓練にも参加し、個人はもとよりセンターとして防災にいかに関わっていくかを関係する方々と協議しております。

年度	日時/場所	内容
2020 年度	６－８月 大学	大学敷地内にマンホールトイレが市により設置されたことに伴い、場所の確認を実施。要配慮者を想定して簡易トイレをセンター内に備蓄した。
	7 月 28 日 ８月４日 昭和町	３年生 33 名が要配慮者の視点から環境調査を実施。
	８月 14 日 大学	上記の昭和町環境調査について、市職員（福祉保健部、市民生活部）と意見交換会を開催。
	９月 10 日 大学	大学を避難所と想定した際の環境調査を４年生 16 名が実施。
	９月 14 日 大学	９月 10 日避難所の環境調査結果について、市職員（福祉保健部、市民生活部）と意見交換会を開催。
	９月 26 日 昭和町	住民の方へ、３年生８名により調査結果を報告し、意見交換会を開催。
	10 月 25 日 大学	本学を避難所とした木崎地区避難訓練に学生団員５名がが参加し、トリアージや防寒シート活用等を紹介。
	11 月 14 日 粟野地区	福井県総合防災訓練に４年生 16 名が参加。
2021 年度	６月 29 日	呉竹町で３年生 39 名が要配慮者の視点から環境調査を実施。
	７月 20 日 大学	上記の呉竹町環境調査について、市職員（福祉保健部、市民生活部）と意見交換を開催。
	９月 10 日 呉竹町	呉竹町の住民の方へ、３年生４名（により調査結果を報告し、意見交換会を開催。
	10 月 30 日	福井県原子力防災訓練に４年生 16 名が参加。
	11 月	本学避難所の利用にあたり、災害危機管理委員会と協力してレイアウト案を提出。
2022 年度	７月 2-3 日	敦賀市防災訓練において避難者宿泊体験に避難者として体験。
	７月 28 日 ８月４日 昭和町	３年生が水害への備えと避難について昭和町で調査を実施。
	８月 14 日 大学	上記の昭和町での調査について、市職員（福祉保健部、市民生活部）と意見交換会を開催。
	10 月 29 日 昭和町	昭和町会館において今年行った昭和町防災意識調査報告と意見交換を実施。
	11 月６日	福井県原子力総合防災訓練練において、救急・災害看護学分野の学生 14 名及び教員１名が賤ヶ岳 SA で行われたスクリーニング検査受検に参加。

【地区調査・環境 MAP の作成】

【市職員・住民の方との意見交換】

２）敦賀消防団機能別班（学生団員）活動

消防団機能別班は、それぞれの能力やメリットを活かしながら、地域で特定の消防団活動をする団員です。敦賀市立看護大学では、AHA BLS Hearthcare Provider Course（American Heart Association　Basic Life Supportの公式コース、以下、AHA-BLS　Course と略す）を開催しており、救急看護学を履修する学生が３年次に取得しています。その資格を取得した学生のうち15名が、自分の意思で敦賀消防団機能別班学生団員（以下、学生団員）に登録しております。

2020年から３年間で延べ45名の学生が団員として活動いたしました。振り返れば、新型コロナウィルス感染症によって、活動を制限せざるを得ませんでした。それでも、学生団員は、活動の工夫をしながら、地元の消防機関と連携して地域に出向き、心肺蘇生法などの救急応急手当や防災に関する普及活動を行いました。

具体的には、地域で開催される救命講習や防災訓練などに2020年度は３件、2021年度は４件、2022年度は11件に参加しました。

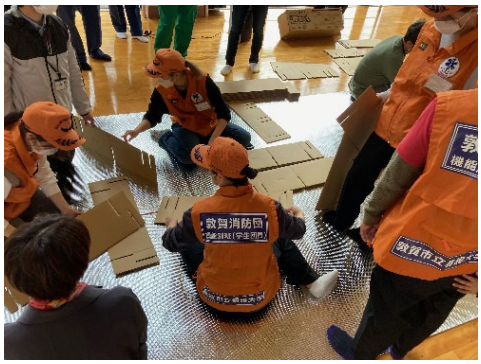
心肺蘇生法の指導や防災普及活動を行った学生は、「自分が今まで学んだことを役立てられたので良かった」、「実際に住民の声や、地域に出向くことで現実性を踏まえた課題や対策というのを考えさせられた」などの学習成果が得られています。

2022 年６月に実施した、中郷小学校 BFC クラブ員への救急講習では、救急救命士と共に小学生へ心肺蘇生法や傷病者搬送の指導を行いました（写真：巻末資料）。学生から、「自分が見本になる必要があり、とても緊張した。救命士の方は小学生の方々に対してわかりやすく面白く指導をしていて、対象に合わせた説明や言葉選び、雰囲気作りが大切ということを実感した」「印象に残るように大切なところは繰り返し伝えるなど工夫して、参加してくださる方々のためになる指導をしていきたい」など感想を述べていました。

さらに、2022 年２月には、本学学生団員の活動が評価され、総務省消防庁より、令和３年度消防団等地域活動表彰が授与されました。

このように、地元の消防機関と連携した活動は、学生の教育の場の提供だけではなく、有事の際に地域住民の命と安全を守ることに繋がっています。

【防災訓練】



敦賀市木崎地区住民は、大学と協働し、指定避難所である本学への避難訓練を行った。学生団員も協力し、避難者の受付や段ボールベッドの作成をした。また、健康障害を抱える避難者も想定し、車いすの使い方、レスキューシートの使い方、毛布担架の作り方等、住民へ指導を行った。学生は「大学までの避難を体験するよい機会になったと思う」「段ボールベッドはなかなか上手くできなかったが、貴重な体験になった」と訓練の大切さを実感していた。

【小学生への救急講習】

敦賀消防団機能別班（学生団員）活動では、中郷小学校で救急講習に参加し、BFC クラブ員に心肺蘇生法の普及活動を行った。小学生は、お姉さんのような存在から指導されることで、リラックスして講習を受けることができていた。学生の感想は、「生徒さんが、しっかり話を聞き実践にも積極的に取り組んでくれたのでとても楽しく指導することができた」「講義するプレッシャーがありましたが、実際やってみると楽しく、とてもやりがいのある活動であった」など、学生自身も満足度が高いことが伺われた。

【東洋紡での講習】

東洋紡敦賀事業所において従業員の方々へ、徳永教授による CPR と AED の知識と技術の講義と学生団員による CPR＋AED の実技指導を行った。消防団は、実技指導を担当した。従業員 2 名一組で練習する場面で、注意点やポイントなどを指導した。また、従業員からの質問にも対応した。学生は「この技術が人命救助につながれば」と期待を膨らませていた。

【消防団活動への表彰・市長への報告】

令和 3 年度消防団等地域活動表彰を受け、2022 年 4 月に敦賀市長を表敬訪問した。この表彰は、平常時の活動により、地域防災力の向上に寄与し、地域住民の安全の保持、向上に顕著な功績があり、全国の模範となる消防団に対し、消防庁長官が表彰するもの。この度、本学学生 15 名で構成されている敦賀消防団機能別班の活動が評価され受賞した。受賞理由としては、新型コロナウィルス感染症に対応した心肺蘇生法の動画を作成しての啓発活動やホームページに看護職者や市民に役立つ新型コロナウィルス感染症の情報を分かりやすく分類し掲載した広報活動などが挙げられた。学生は「これからも市民のために努力したい」と今後の活動に意欲を示した。

年度	日時/場所	内容	備考
2020 年度	７月 23 日	Web オープンキャンパスでの学生団員紹介に、学生３名が参加。	
	10 月 25 日	木崎地区の避難訓練に、学生５名、教員２名が参加。	
	３月２日	コロナ流行下 CPR ビデオ作製に、学生４名、教員４名が参加。	本学ホームページに掲載
2021 年度	８月 21 日	昭和町夏祭りでの防災 PR に、学生 10 名、教員３名が参加。	
	９月 10 日	呉竹町での防災の話し合いに、学生４名、教員２名が参加。	
	10 月 30 日	大学健康講座での CPR 指導に、学生８名、教員１名が参加。	
	11 月３日	オープンキャンパスでの CPR 講座に、学生３名が参加。	
2022 年度	４月５日	消防団等地域活動表彰伝達授与式に学生８名が参加。	
	４月５日	表彰授与に係る敦賀市長表敬訪問に学生２名、教員２名が参加。	
	６月 10 日	救急救命士による学生団員学習会に、学生 12 名、教員１名が参加。３年生および４年生消防団の交流会も開催。	
	６月 22 日	中郷小学校での BFC（少年消防）クラブ員救急講習に、学生４名、教員１名が参加。	
	７月２日	自治会主催スポーツ大会での救護および１・２年生と学生団員との交流会に、学生５名、教員１名が参加。	
	７月 2-3 日	敦賀市防災訓練での避難者体験に、学生３名が参加。	
	７月 17 日	オープンキャンパスでの CPR 指導と学生団員 PR に、学生 13 名、教員３名が参加。	
	７月 23 日	敦賀市女性クラブでの CPR と AED 指導に、学生６名、教員２名が参加。	
	８月 19 日	東洋紡敦賀での従業員 AED 講習会に、学生９名、教員３名が参加。	
	８月 19 日	日本原電 VR 体験研修会に、学生 10 名、教員５名が参加。	
	10 月 22 日	木崎地区の避難訓練に、学生５名、教員４名が参加。	
	10 月 29 日	昭和町の防災意識調査報告および意見交換会に、学生７名、教員３名が参加。	
	11 月３日	オープンキャンパスでの CPR 指導と学生団員 PR に、学生２名、教員４名が参加。	

３）卒業生および医療従事者対象の AHA-BLS Course 開催

グローバルスタンダードと世界中でも評価されているアメリカ心臓協会（AHA）のコースを卒業後も受講できる環境を整えています。コース修了者には国際ライセンスカードが発行されますが、有効期限は２年間です。継続して資格を維持するために 2020 年から３年間で延べ 23 名が更新しました。コースは一般社団法人愛岐救急医療研究会と BLS インストラクターである教員２名が協働し実施しています。

卒業生が AHA BLS Course に参加した。BLS の資格取得はもとより、卒業後に、集まる機会となり、話が盛り上がっていた。

年度	日時/場所	内容	備考
2020 年度			感染流行状況により中止。
2021 年度	７月 24 日	卒業生４名が受講。	
	12 月 25 日	卒業生 10 名が受講。	
2022 年度	７月 16 日	卒業生７名、関連施設２名が受講。	

４）原子力施設視察研修など

敦賀市の特徴でもあります原子力について、学生が学びを深める機会として視察研修（敦賀市危機管理対策課の企画）をサポートしています。

年度	日時/場所	内容	備考
2020 年度	９月 10 日	敦賀原電をはじめとする市民原子力視察研修に４年生 16 名が参加。	
2021 年度			感染流行状況により中止。
2022 年度	８月 19 日	COVID-19 感染拡大防止対策の状況により、本学で、日本原子力研究開発機構の協力のもと VR 見学体験研修会を開催し、学生 10 名、教員５名が参加。	

５）研修会や広報活動など

看護職を含め一般の方々も対象に救急・災害の知識や技術などの啓発活動や各メンバーの専門分野を活かして講演や研修会を行っております。講演や研修会のご依頼は随時受け付けております。2022 年度は地域共生社会推進全国サミットで展示も行いました。

また、2019 年からの新型コロナウィルス感染症流行を受け、大学ホームページの救急・災害看護研究センターのページ内に新型コロナウィルス関連の情報ページを設け、新型コロナウィルスを含めた感染症対策や心肺蘇生法についての情報提供も行っております。

年度	日時/場所	内容	備考
2020 年度	６月	「新型コロナ感染症（COVID-19）第 ２ 波と自然災害に備えよう！」をテーマに、保健管理室と救急・災害看護研究センターが合同で企画し、学生と本学教員により動画５本を作成。	随時 Update 継続中
	７月９日 小浜市	福井ライフ・アカデミー共催講座「避難時の心得」講師。	
	10 月４日 美浜町	郷市区集落元気プラン～地区診断法ワークショップ～への協力依頼があり、学生２名と教員１名が参加し、住民とともに郷市の魅力づくりについてグループワークを行った。	
	11 月 29 日 あわら市	福井ライフ・アカデミー共催講座「備えあれば患いなし」講師。	
	３月 10 日	「COVID-19 流行下の心肺蘇生法」の解説ビデオを３年生４名と教員が作成。大学 HP に掲載するとともに市民対象の研修会時に活用し広報。	
	３月 12 日	「COVID-19 流行下の心肺蘇生法」の解説ビデオに関連して、３年生４名が RCN の取材に応じ、番組「つるいち」で放映された。	
	３月 18 日 敦賀市	敦賀市スポーツ協議会　講演「感染リスクを下げて New　Sports」講師。	
2021 年度	８月２日 越前市	越前市スポーツ指導者協議会 講演「感染リスクを下げて New Sports」講師。	
	10 月９日 小浜市	講演「避難所での男女の役割」講師。	
	10 月 24 日 美浜町	講演「防災とコロナ感染症対策」講師。	
2022 年度	11 月 17-18 日	地域共生社会推進全国サミット（敦賀）に、学生消防団の活動紹介ポスターを展示。	巻末資料

【救急・災害看護研究センター新型コロナウィルス関連ホームページ QR コード】

６）シミュレーション･ラボの活用促進と管理

学外者に対し、センターのシミュレーション機器の貸出しやシミュレーション･ラボの開放を行っています。

学生たちが、授業時間以外にシミュレーション人形を用いて観察や救急処置などを学習している姿も見られます。

特に 2021 年度より、フィジカルアセスメント week（教員立会いのもとラボを開放して、診察方法や観察方法について自己学習できる期間）を開催していることで、実技試験前や実習前の２年生を中心に利用者が増加しています。

また、コロナ禍により臨地実習の時間が制限されることもありましたが、ラボを活用することで学習を補うことも出来ました。

また、シミュレーション・ラボの利用頻度の増加に伴い、設置機材の整備とメンテナンスの強化を図っています。

（シミュレーション・ラボの利用状況）

年度	２年生	３年生	４年生	計	前年比
2020 年度	０人	117 人	141 人	258 人	－
2021 年度	243 人	81 人	31 人	355 人	1.38
2022 年度	303 人	84 人	129 人	516 人	1.45

【フィジカルアセスメント week の様子】

（2022 年 5 月 27 日撮影）

７） TNU（Tsuruga Nursing University） 救急・災害看護研究センター交流会

2020 年度：新型コロナ感染症予防対策により、Web 会議システムを活用した「TNU 救急・災害看護研究センター Home coming day ! 2021. 3」を企画した。
卒業生（旧学生団員）に案内したが、日程が合わないため、次年度に延期となった。

＜2021 年度＞
日時：2021 年 7 月 24 日（土） 場所：敦賀市立看護大学
内容：救急や災害看護に関する相談、情報交換の場を提供するため、「TNU 救急・災害看護研究センター交流会 2021」を開催（ハイブリット）し、卒業者（旧学生団員を含む）15 名が参加した。久しぶりの再会ということもあり、大学生活の思い出などに話が弾み、盛況なうちに終了となりました。
参加者の声:「職場では災害委員として勉強会を開催するなどして頑張っています」「大学で習った知識や技術が活かせています」

【当日の様子】

＜2022 年度＞
日時：2022 年 7 月 16 日（土） 場所：敦賀市立看護大学
内容：救急や災害看護に関する相談、情報交換の場を提供するため、卒業生対象「TNU 救急・災害看護研究センター交流会 2022」を開催し、卒業生 11 名が参加しました。
参加者の声:「久しぶりに先生方に会い、学生であった自分を思い出し少しホッとした」「今日参加した先輩の話からこの先の課題やどのような壁にぶつかるのかがわかった」

【当日の様子】

Ⅴ．総括

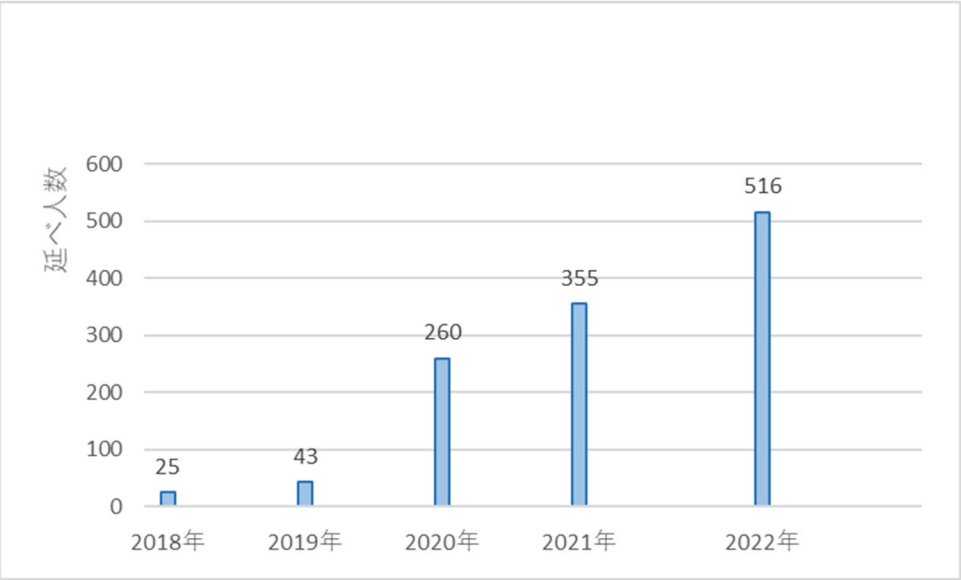
2020-2022 年度は新型コロナウィルスの流行のため、救急・災害看護研究センターの活動も大きな影響を受けました。特に学生消防団活動は例年、市民や高校生、保育園などで BLS 講習を行ったり、消防署と連携して講習などの手伝いをしたりしていましたが 2020 年度は全て中止となりました。また、AHA-BLS の資格取得についても学部生への講習は行えましたが、資格更新講習は見送らざるをえませんでした。原子力施設の見学についても県外移動を伴う活動は見送られました。その他、様々な制約がある中での活動とはなりましたが、地域調査や避難訓練等は流行状況を踏まえつつ活動を継続することができました。地域との結びつきが途絶えることが無かったことは幸いでした。また、活動自体は全体を通すと規模の縮小や内容の転換等を強いられることが多くありましたが、映像コンテンツの充実という点では精力的に行えました。加えて、2020 年度からはセンター主催で対面とオンラインのハイブリッド形式で卒業生が集まる機会の提供を始めることが出来ました。新型コロナウィルス流行のなかでも工夫することで活動を行えるという経験を得たのではないかと考えております。教育・地域貢献についても感染対策を行い工夫しつつ活動は行えました。研究については将来に向けて研究支援はもとより、救急・災害看護を研究するセンターとして地域とのつながりの中で研究を進めていく必要があると考えております。

（編集　池原弘展・河合正成）

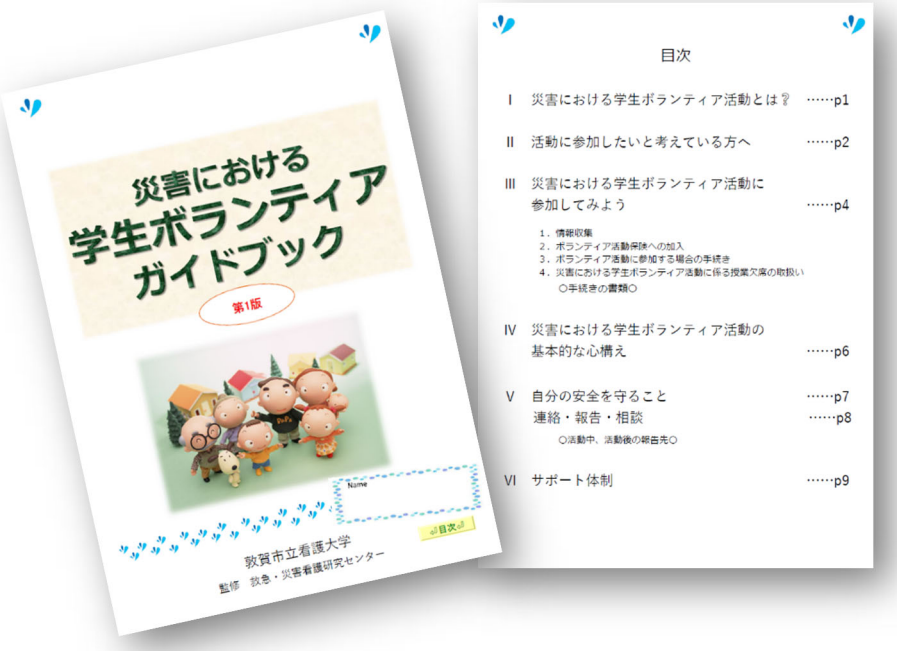
Ⅵ. 資料

1）グラフで見る救急・災害看護研究センターの活動

【救急・災害看護研究センター　シュミレーション・ラボ利用者数】

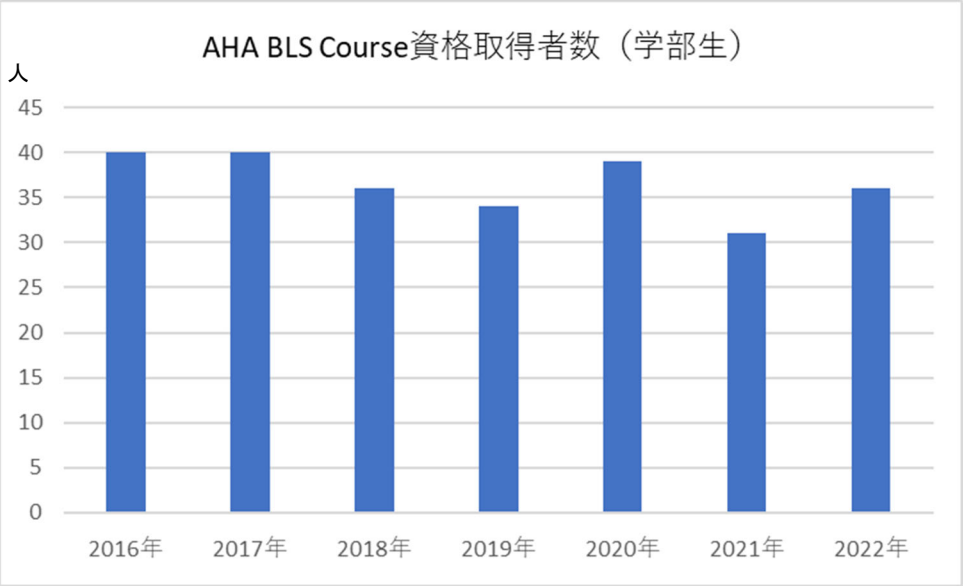


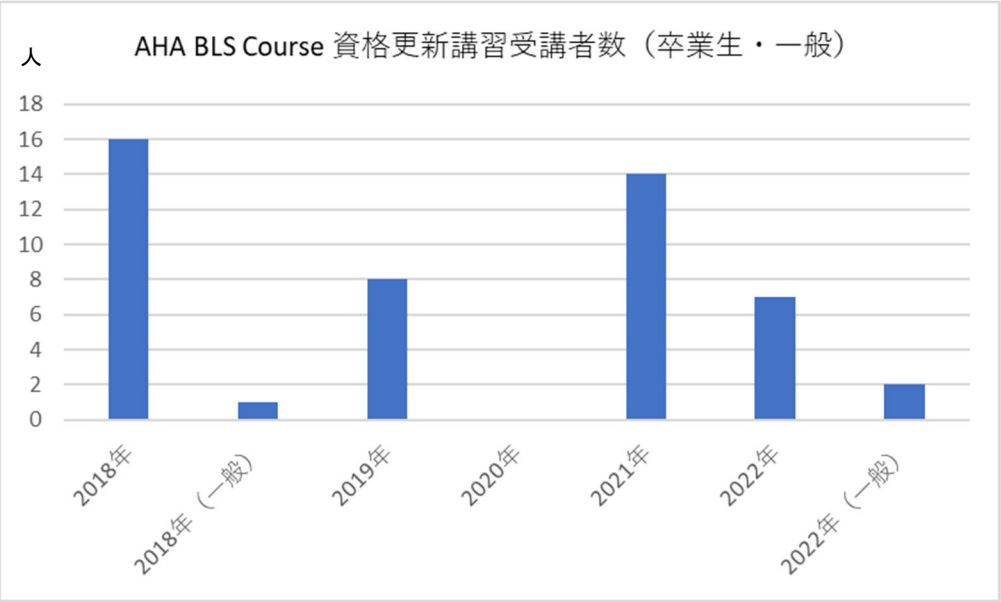
【災害における学生ボランティアガイドブック（2020 年 4 月発行)】



新型コロナウィルス感染症の影響により利用状況の調査は延期している。

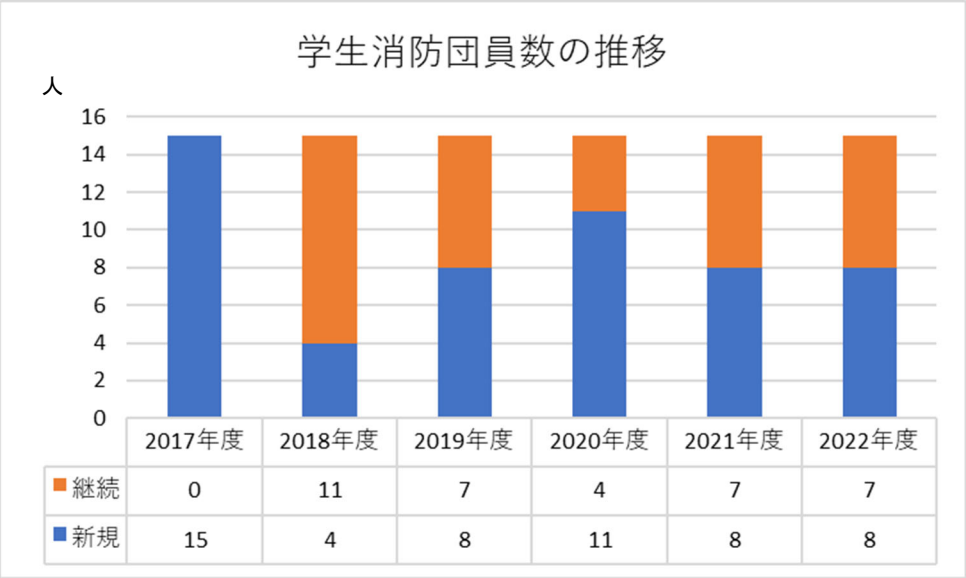
【AHA-BLS 講習】



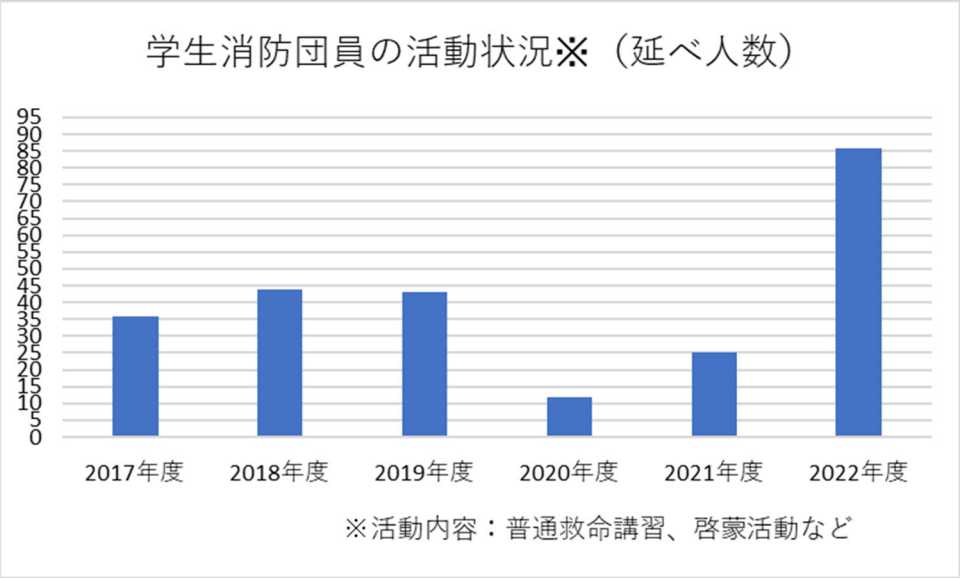


＊2020 年度は新型コロナウィルスの流行状況により講習を中止した。

【学生消防団】



	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
継続	0	11	7	4	7	7
新規	15	4	8	11	8	8



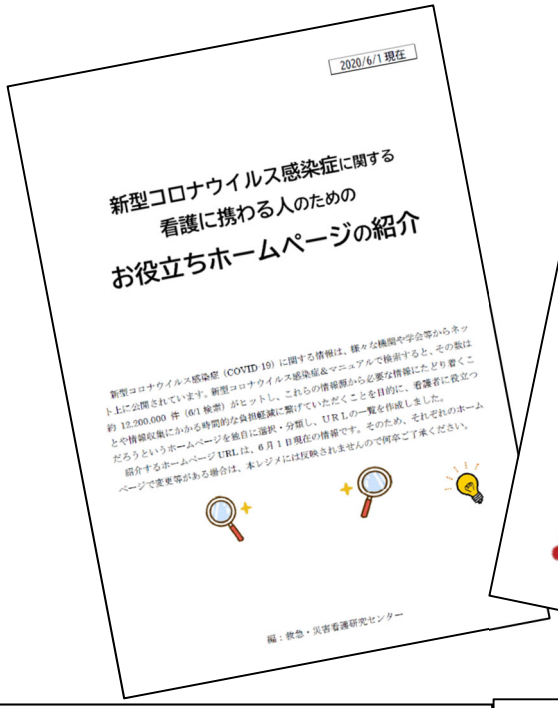
＊2020・2021 年度は新型コロナウィルスの流行のため多くの活動が中止された。

2）「第 4 回地域共生社会推進全国サミット in つるが」2022 年 11 月 17-18 日
パネル展示

3）新型コロナウィルス関係の情報発信

2020 年 8 月より大学 HP に掲載を開始、アップデートは 1 － 2 回/年実施。

（1）新型コロナウィルス感染症に関する看護に携わる人のためのお役立ちホームページの紹介　（2022 年 1 月～2023 年 2 月まで掲載）



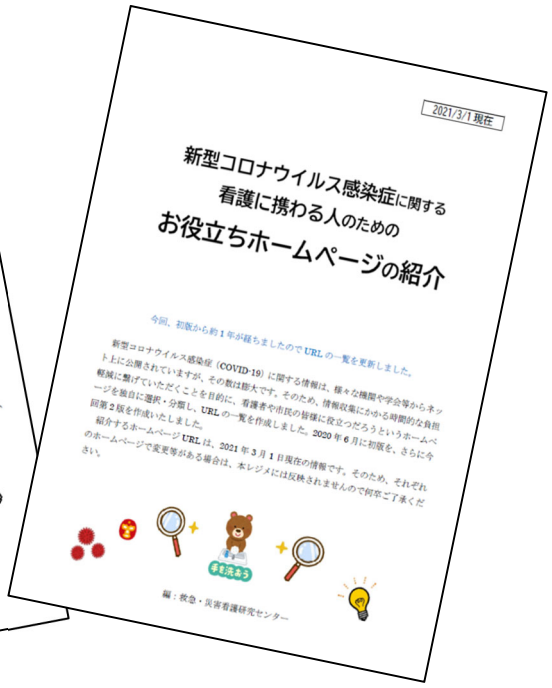
2020/6/1 現在

新型コロナウイルス感染症に関する
看護に携わる人のための
お役立ちホームページの紹介

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する情報は、様々な機関や学会等からネット上に公開されています。新型コロナウイルス感染症&マニュアルで検索すると、その数は約 12,300,000 件（6/1 検索）がヒットし、これらの情報源から必要な情報にたどり着くことや情報収集にかかる時間的な負担軽減に繋げていただくことを目的に、看護者に役立つだろうというホームページを独自に選択・分類し、URL の一覧を作成しました。

紹介するホームページ URL は、6 月 1 日現在の情報です。そのため、それぞれのホームページで変更等がある場合は、本レジメには反映されませんので何卒ご了承ください。

編：救急・災害看護研究センター



2021/3/1 現在

新型コロナウイルス感染症に関する
看護に携わる人のための
お役立ちホームページの紹介

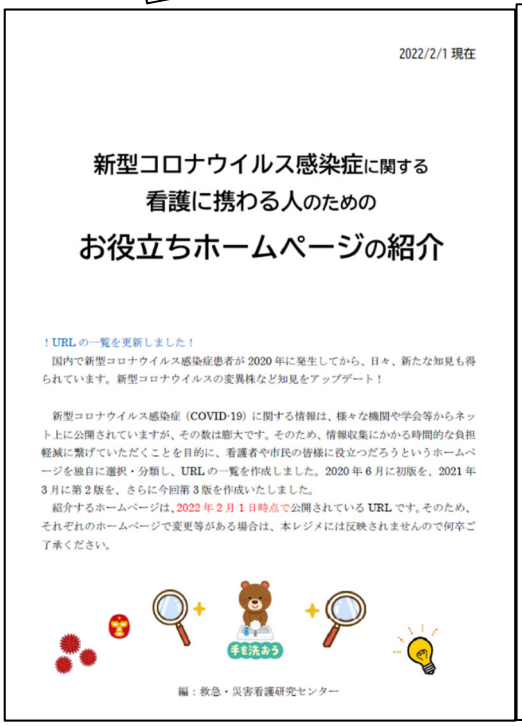
今回、初版から約 1 年が経ちましたので URL の一覧を更新しました。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する情報は、様々な機関や学会等からネット上に公開されていますが、その数は膨大です。そのため、情報収集にかかる時間的な負担軽減に繋げていただくことを目的に、看護者や市民の皆様に役立つだろうというホームページを独自に選択・分類し、URL の一覧を作成しました。2020 年 6 月に初版を、さらに今回第 2 版を作成いたしました。

紹介するホームページ URL は、2021 年 3 月 1 日現在の情報です。そのため、それぞれのホームページで変更等がある場合は、本レジメには反映されませんので何卒ご了承ください。

手を洗おう

編：救急・災害看護研究センター



2022/2/1 現在

新型コロナウイルス感染症に関する
看護に携わる人のための
お役立ちホームページの紹介

！URL の一覧を更新しました！

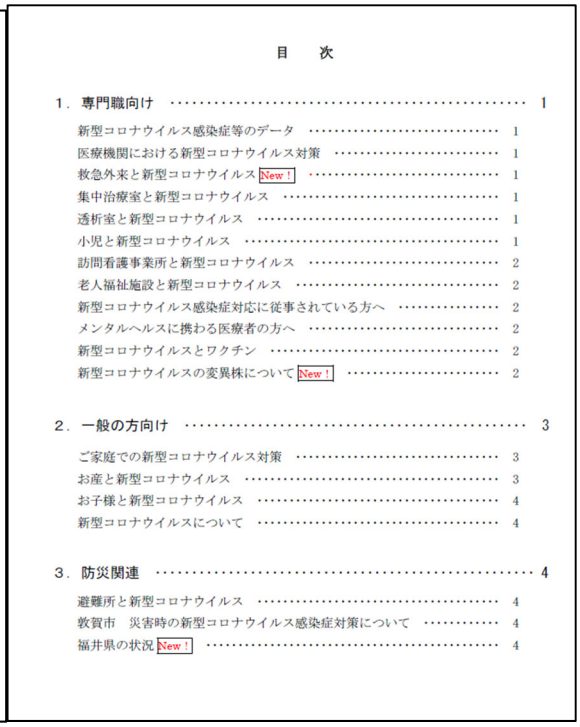
国内で新型コロナウイルス感染症患者が 2020 年に発生してから、日々、新たな知見も得られています。新型コロナウイルスの変異株など知見をアップデート！

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する情報は、様々な機関や学会等からネット上に公開されていますが、その数は膨大です。そのため、情報収集にかかる時間的な負担軽減に繋げていただくことを目的に、看護者や市民の皆様に役立つだろうというホームページを独自に選択・分類し、URL の一覧を作成しました。2020 年 6 月に初版を、2021 年 3 月に第 2 版を、さらに今回第 3 版を作成いたしました。

紹介するホームページは、2022 年 2 月 1 日時点で公開されている URL です。そのため、それぞれのホームページで変更等がある場合は、本レジメには反映されませんので何卒ご了承ください。

手を洗おう

編：救急・災害看護研究センター



目　次

1．専門職向け …… 1
新型コロナウイルス感染症等のデータ …… 1
医療機関における新型コロナウイルス対策 …… 1
救急外来と新型コロナウイルス New！ …… 1
集中治療室と新型コロナウイルス …… 1
透析室と新型コロナウイルス …… 1
小児と新型コロナウイルス …… 1
訪問看護事業所と新型コロナウイルス …… 2
老人福祉施設と新型コロナウイルス …… 2
新型コロナウイルス感染症対応に従事されている方へ …… 2
メンタルヘルスに携わる医療者の方へ …… 2
新型コロナウイルスとワクチン …… 2
新型コロナウイルスの変異株について New！ …… 2

2．一般の方向け …… 3
ご家庭での新型コロナウイルス対策 …… 3
お産と新型コロナウイルス …… 3
お子様と新型コロナウイルス …… 4
新型コロナウイルスについて …… 4

3．防災関連 …… 4
避難所と新型コロナウイルス …… 4
敦賀市　災害時の新型コロナウイルス感染症対策について …… 4
福井県の状況 New！ …… 4

（２）保健管理室＆救急・災害看護研究センター合同企画
新型コロナ感染症（COVID-19）自然災害に備えよう！

■2022 年 1 月時点の掲載内容■

学生、教職員、地域の医療関係者等の皆さん！新型コロナウィルス感染拡大防止のため ３つの密を避ける行動が重要です。

あなたは、正しい知識と根拠に基づいて行動していますか？

今さら聞けない新型コロナウィルス感染症（COVID-19）の正体を理解するために、さらに COVID-19 に自然災害が加わる複合災害に備えるため、いつでも気軽にアクセスできる情報源！

【監修：徳永日呂伸　山崎加代子】

①新型コロナウィルス感染症～正しく怖がり、正しく対応するために～
②感染の経路と予防＿１ 基礎知識編
③感染の経路と予防＿２ 大学での日常生活の場面から
（動画は、３つの密に注意し本学学生の協力を得て撮影しました）
④COVID-19 を含めて災害に備える
⑤手を正しくきれいにする方法!!
⑥心肺蘇生法と新型コロナウィルス感染症

（保健管理室）
徳永日呂伸 中堀伸枝 柳澤奈美 村田尚子
（救急・災害看護研究センター）
山崎加代子　池原弘展　河合正成　横山浩誉　野沢和也

■2023 年 2 月時点の掲載内容■

学生、教職員、地域の医療関係者等の皆さん！

災害と感染症は、人々の生命に深刻な影響を及ぼすことがあります。災害の後に環境が悪化することで感染症が発生しやすくなります。感染症の正しい知識と予防行動が、加年商のリスクを下げます。

日頃からできていないことは、有事の際にはさらに難しくなります。あなたは、正しい知識と根拠に基づいて行動していますか？

【監修：徳永日呂伸　山崎加代子】

①手指衛生!! 知識・理論編～キレイな手になろう～（2023 年２月 up）
②感染の経路と予防＿１ 基礎知識編（2020 年８月 up）
③感染の経路と予防＿２ 大学での日常生活の場面から（2020 年８月 up）
（動画は、感染予防対策のもと本学学生の協力を得て撮影しました）
④COVID-19 を含めて災害に備える（2020 年８月 up）
⑤手を正しくきれいにする方法!!（2020 年８月 up）
⑥心肺蘇生法と新型コロナウィルス感染症（2021 年３月 up）

（保健管理室）
徳永日呂伸 山﨑弘美 小山珠美 高城絵美
（救急・災害看護研究センター）
山崎加代子 徳永日呂伸 池原弘展　河合正成　横山浩誉　野沢和也

新型コロナウイルス感染症
正しく怖がり、正しく対応する為に
2022年1月追補版
感染経路を絶つ!!
- 感染の経路と予防① 基礎知識編 -
感染経路を絶つ!!
- 感染の経路と予防② -
<日常生活の場面から>
この講義の内容
・復習：用語の確認（変異株について含む）
・復習：感染経路とその予防策を知る
・インフルエンザとの重要な違い
・ワクチン接種していれば大安心、ではない
感染の成立に必要な要素
皆さん！！皆さん！！皆さん！！
普段、大学での生活において、いくつもの
「接触・飛沫感染」のリスクが高い場面があります。
今から、それらを紹介します。
コロナ？ コビッド？
COVID-19の伝播経路
まずはこの場面！！皆さんが大学へくるときの
よくある光景かと思います。
では「接触・飛沫感染」のリスクが高い場面は
いったいどこにあるのか見てみましょう。
変異株とは？ 何をどう心配す
伝播経路を絶つ!!
接触・飛沫感染のリスクの高い場面
<通学時の様子①>
（※「駐輪場」-「大学入り口」-「廊下」）
感染経路（1/2）
手をきれいにするため
接触・飛沫感染のリスクの高い場面
<通学時の様子②>
（※「駐輪場」-「大学入り口」-「廊下」）
感染経路（2/
手をきれいにするため
駐輪場・駐車場などでよく見る光景ですね。
気をつけてほしいのは・・・
①大学についてすぐに近い距離で友達と話をするのは「接触・飛沫感染」のリスクが高いです。
②季節的に暑いのもありますが、マスクを外すことも「接触・飛沫感染」のリスクは高いです。
感染予防を意識しましょう！！次は・・・
ソーシャル・ディスタ
も重要!!
接触・飛沫感染のリスクの高い場面

災害への備え
COVID-19編
“今、あなたができること”
被害の軽減のために（減災）
『人』の備え
『物』の備え
『情報』の備え
『ネットワーク』の備え
敦賀市立看護大学
学生消防団と学ぶ
あなたの勇気で命を救う
心肺蘇生法
～新型コロナウイルス感染症バージョン～
手指衛生!! 知識・理論編
キレイな手になろう。
A市立看護大学の学生の手は
キレイなの？
手指衛生の習慣は身についていますか？
実際にどのくらいの人が手指衛生をしているのでしょうか？
実施率22.1％ 約5人に1人しかしていない!!
ある調査による看護師の手指衛生実施率
72.7%
22.1%
手指衛生の効果

4）救急・災害看護研究センター構成員

[　五十音順　　○センター長　　※事務局　]

2020 年度（令和２年度）	2021 年度（令和３年度）	2022 年度（令和４年度）
池原　弘展	池原　弘展	池原　弘展
河合　正成	河合　正成	河合　正成
野沢　和也	野沢　和也	徳永日呂伸
○山崎加代子	○山崎加代子	野沢　和也
横山　浩誉	横山　浩誉	○山崎加代子
※桝本　洋樹	※奥井　伸吾	横山　浩誉
		※奥井　伸吾

2020-2022年度 救急･災害看護研究センター報告書

2023年3月31日 発行

編集/発行 敦賀市立看護大学 救急･災害看護研究センター

〒914-0814 福井県敦賀市木崎78号2番地-1

TEL：0770-20-5500　FAX：0770-20-5548